

加工用中輪ギクの生産拡大

甲賀農業普及指導センター

【普及活動のねらい】

県では、仏花の組花素材として、草丈 60 cm 前後で出荷する「加工用中輪ギク」を花き推進品目と位置づけて生産拡大を進めています。「加工用中輪ギク」は、市場と組花加工業者に高く評価され、増産の要望があります。作付け推進の結果、平成 29 年度に 2 戸でスタートした甲賀地域での生産者は、令和元年度には 7 戸に増加しました。しかし、市場からの出荷要請量（全県で 50 万本）には、まだまだ生産が追い付いていません。

この出荷要請に応じて生産拡大を進めるため、これまでの 8 月盆前出荷だけでなく、新たに 12 月上旬出荷を加えた年 2 作体系を提案し、その確立に向けた技術支援を行いました。

【普及活動の内容】

新たな作型の提案に向け、市場担当者と出荷時期の調整を行い、主要産地の端境期にあたる 12 月上旬出荷をターゲットに絞り、作付けを推進しました。

12 月上旬出荷では、切り花品質の確保においてポイントとなる 3 作業（再電照、矮化处理、収穫）の作業適期幅が短く、そのタイミングの見極めが難しいため、その 3 作業を重点的に技術支援を行いました。

まず、上位の葉が極端に小さくなる症状を防止するため、キクの花芽を顕微鏡で確認し、再電照を実施しました。次に、矮化处理は花蕾下の茎が徒長しないよう、再電照終了時と発蕾時、摘蕾時の 3 回実施しました。さらに、収穫前に、市場担当者と連絡を取り、出荷先（実需）に対応した規格（切り前と長さ、脱葉）を確認しました。



写真 1 現地での研修会



写真 2 12 月上旬出荷の中輪ギク

【普及活動の成果】

新たな作型である 12 月上旬出荷の導入により、甲賀地域で 8 月盆前出荷の 4 万本に加え、新たに 1 万本の増産となりました。切り花品質の確保に重要な 3 作業（再電照、矮化处理、収穫）は、タイミングの見極め支援により、各生産者とも適期に実施することができました。これにより、出荷された切り花に対する市場の評価は非常に高く、8 月盆前出荷を上回る価格で販売できました。

当課では、今後も年 2 作体系の定着と、さらなる生産拡大に向け支援を継続します。

◎対象者の意見

再電照や矮化处理、収穫など重要なポイントとなる作業についてはほ場での直接指導により、適期に実施することができ、高品質な中輪ギクが生産できた（JA こうか花卉部会員）。